

ミーティングの 10のステップ



子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

ステップ概要

ステップ0

本音を出せる環境があるか

ステップ1

集まる

ステップ2

耳を向ける

ステップ3

声を出す

ステップ4

傾聴する

ステップ5

話す

ステップ6

会話する

ステップ7

考える

ステップ8

意見を出す

ステップ9

考え合う

ステップ10

そしてまた暮らしへ

ステップ10

そしてまた暮らしへ～ミーティングの終わり方

● 子どものものは、子どもに返す

ミーティングを長年やっている保育者たちも、しばしば悩まされるミーティングの終わり方について。

わいわい話し合っ、いろいろ意見が出て、それで……どこでどう終わればいいのか？ 最後いつもぐだぐだになってしまう。反対に、なんだか保育者がまとめ過ぎてしまう。

これについては今一度、「ミーティングは保育のなかにある」ということを確認しましょう。ミーティングは、ミーティングだけで独立してあるわけではなくて、保育のなかで起こる様々なことを子どもたち同士で話し合う場です。だからこそ、ミーティングだけで完結しないのです。

「きりっ！と終わろう」と思い込んでしまうと、ミーティングが「寄り合い」ではなくて、結論ありきの「会議」になってしまいます。お

となが無理やり「じゃあ、こうしよう」「こうしたらいいじゃん、ねっ！」と強めのアクセントをつけて終わることになってしまいます（ミーティングが会議じゃなくて、寄り合いなんですよーというあたりのことは、「ステップ1 集まる」をご参照ください）。

ミーティングのいちばんの目的は、それぞれが本音を出し合えること、その本音をあれこれみんなで揉み合えることです。

その話し合いの結論めいたものがとりあえず出る時もあれば、出ない時もあります。そのくらいの気持ちで臨んでください。

でも、あんまりグダグダでいいのか、というとそんなこともありません。どのくらいまではせめて、ミーティングでいきたいか。

例えば、困ってる人がいて「こまってる」という本音が出た。

それに対して、周りの人たちも、あれこれ考えて、意見を出して考え合った。



そこで困ってる人に「アレコレいろいろでたけど、どう思う？」と聞いてみた。

そしたら「うーん……」とその困ってる人が唸ってる。

こんなふうになる時も結構ありますが、ここまで来たら、ミーティングの目的は果たせています。本音が出ているか、それをみんなで考え合えているか。結論がその場で出るかどうか(出したいかどうかも含めて)はその時次第です。

私ならここで、「今言われてもパッと出ないよね。じゃあお昼ご飯食べようか」というような感じで散会してしまいます。

なぜこれで終わってもいいのかというと、先ほど確認したとおり、ミーティングは保育のなかにあり、その後も保育は続いていくわけです。あとは、その困ってる当事者がどうしていくか。いきたいのか。みんなの前で気持ちを言えて、受け取ってもらって、それでも満足かもしれ

ない。困っている状況に対して、話し合いでもらった周りからの声も聞きつつ、自分なりに動いてみるかもしれない。また困ってしまうかもしれない。

保育者としては、それを注意深く、そっと見ていればいいわけです。

子どものものは子どもに返す。その人が困っていることは最終的にはその人に返す。

突き放すということではなくて、また困っていたら寄り添いますが、答えや振る舞いや感情をその人から奪わない。無理に結論づけなくてまた保育へつなげていく。

ミーティング、やってみたくなりましたでしょうか。子どもたち一人ひとりの声が聞こえてきたら……きっとさらに保育が楽しくなりますよ。